

助動詞 「る」「らる」

◇活用

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
る	れ	れ	る	るる	るれ	れよ
らる	られ	られ	らる	らるる	らるれ	られよ

◇接続

「る」は四段・ナ変・ラ変の未然形接続、「らる」は四段・ナ変・ラ変以外の未然形接続になる。

◇意味

① 受身 「ゝれる、ゝされる」

…前に「に」という受身の動作の主体がある。

例) 物に襲おそはるる心地して、驚おどろき給へれば、火も消えにけり。(源氏物語)

(物に襲われるような気がして、目をお覚ましになると、灯火も消えてしまっていた。)

② 尊敬 「ゝなされる、ゝになる」

…主語が位の高い人物。又は尊敬語に付属している。

例) 繕ふべき所、所の預かり、今加へたる家司などに仰せらる。(源氏物語)

(修繕なさるべき所を、この宿守りや、新たに加えた家司などにお命じになる。)

③ 可能 「ゝれる、ゝられる」

…後に打消の語や反語表現を伴って不可能の意味を表す。

※ 打消の語…助動詞(ず・じ・まじ)、接続助詞(で)

反語(「そんなはずはない」と否定するような表現方法)…助詞(か・や)

例) 夜一夜、寝も寝られず、悲しうおぼえければ、かく詠みたりける。(大和物語)

(一晩中、寝ることもできず、悲しく思えたので、このように詠みました。)

④ 自発 「ゝれる、ゝられる」

…心情や知覚を表す動詞(思ふ。恥づ。考ふ。見る。聞く。感ず)に付いている。

例) いみじく思ひ嘆かるれど、いかがわせむ。(更級日記)

(たいそう思い嘆かれるけれど、どうしたらいいのか。どうにもならない。)